

## 集団生活や多様な自然体験活動を通して、 豊かな心を育て よりよく自分を高めよう

北広島町立豊平小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 自然 交流

体験活動場所・宿泊場所 広島市似島臨海少年自然の家

### 【学校紹介】

○ 豊平小学校は、平成25年4月に北広島町内の豊平地域3小学校（南小、西小、東小）が統合してできた中山間地の小学校である。10月に新校舎が完成し、隣接する豊平中学校と共に山県郡内初の併設型小中一貫校「豊平学園」として小中一貫教育を推進している。豊平学園では、小・中学校共通の研究主題を「夢と志を持ち、自己実現をめざす児童・生徒の育成 ～生徒指導の三機能を生かした授業・活動づくりを通して～」と設定し、小・中学校の9年間で児童生徒に「自己実現を図るための自己指導能力」を身につけさせることをねらって研究実践をしている。キーワードとして、①自己肯定感 ②自己有用感 ③他者理解 ④規範意識 の4つを挙げ、生徒指導の三機能を生かした種々の活動・授業づくりを通して研究主題に迫る取組を行っている。



豊平地域は、そばの里として有名であるが、米・野菜・花苗栽培等の農業も盛んに行われている。神楽・花田植え等の伝統芸能・文化も豊かであり、社会体育にも熱心に取り組まれている。学校教育への支援体制が充実しており、小中一貫校「豊平学園」への期待は大きい。

○校長名：佐々木 昭典

○児童数（学級数）：130名（7学級 特別支援学級を含む）

○所在地：広島県山県郡北広島町都志見通采914

○電話番号：0826-85-0850

○URL：<http://www.khiro.jp/toyohira-syou/>

### 【体験活動のねらい】

○多様な自然体験活動などを通して、挑戦心や自主性・自律心を育てる。

（自分で考え判断し行動する力を身につける。自分のことは自分でする力をつける。など）

○集団生活を通して、他者を思いやる心・感謝の心を育み、社会マナーを身につけさせる。

（友だちのよさを見つけ友だちと協力することの素晴らしさを学ぶ。集団の一員としての自覚を持つ。など）

※宿泊体験活動で学んだことを、以後の日常生活に生かさせる。

## 【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6月 ～ 7月	○集団の一員としてのルール 4－(1) ○礼儀2－(1)	2	道徳の時間	学校	担任
	○学習テーマの設定 ○下調べ ○班別の目標設定	5	総合的な学習の時間	学校	担任
	○交流会の計画準備	2	学級活動	学校	担任
	○受入先等への依頼文作成	2	国語科	学校	担任
7月 30日 ～ 8月 2日	＜宿泊体験活動＞ ○バウムクーヘン作り ○平和学習 ○海辺の生き物観察 ○野外炊飯 ○海洋学習（事前・実習） ○海水プール水泳 ○キャンプファイヤー ○チャレンジ日本一周 （オリエンテーリング）	24	学校行事	似島臨海 少年自然 の家	担任 本校職員 体験活動指導員
9月	○家庭愛4－(5)	1	道徳の時間	学校	担任
	○活動のまとめ ○成果発表会の計画・資料作成	8	総合的な学習の時間	学校	担任
	○体験活動の作文 ○礼状作成	3	国語科	学校	担任
10月 ～ 11月	＜学級発表会＞ ○体験内容の発表	1	総合的な学習の時間	学校	担任
	＜学習発表会＞ ○レポート発表，作品展示	1	総合的な学習の時間	学校	担任

## 【体験活動の概要】

### ○バウムクーヘン作り

似島は日本で最初にバウムクーヘンが作られた所である。戦争による捕虜で似島にいたドイツのユーハイムという人がそれを日本へ伝えたということを踏まえ、宿泊体験施設の指導員から歴史を通して平和の大切さを学んだ後に、各グループごとにバウムクーヘン作りを行った。炎天下での炭火を使った活動であったが、児童は役割分担をし、協力して一層一層焼きあげた。完成したバウムクーヘンを切り分けた際には、きれいにできあがった多重の層を見て歓声が上がり、協力することの大切さや達成感を感じることができた。



## ○海辺の生き物観察

元宮島水族館職員を講師として迎え、日常ではあまり目にするのできない海辺の生き物を探し、その生態などについて指導を受ける学習を行った。グループごとに多くの生物を見つけることに挑戦させたことで、グループの協力性が育まれた。また、海でしか見られない生物に実際に触れたり、感じたりする貴重な自然体験ができた。



## ○野外炊飯・キャンプファイヤー

グループごとにカレーライス・サラダ作りを行った。どのグループも役割分担をし、協力して調理していた。かまどの火をおこすところから始めたカレー作りでは、火加減が難しく、でき上がりが遅れたグループもあった。しかし、お互いに励まし合う声が聞かれ、最後まで粘り強く取り組み、おいしいカレーができた。



キャンプファイヤーでは各班ごとに出し物をすることにした。グループ内で趣向を凝らした出し物を考え、練習に励んだ。その中で練習を中心となって進める存在も現れ、リーダー性を発揮する児童もいた。逆に、思ったように練習が進まなかったグループもあったが、話し合いを重ね、気持ちを確かめながら練習することで、ファイヤー時にはどのグループも堂々と出し物を発表することができた。児童間の人間関係をより深いものにすることができた。

## ○海洋実習「ローボート」(事前・実習)

体験施設の指導員からローボートでの海洋実習について説明を受けた後、各グループで、陸上での練習を行った。その際には「大きな声で」「役割を果たす」「心をそろえる」を評価項目にして、引率職員からの評価・助言を行った。3つの項目が全て揃って合格という条件でチャレンジさせることにより、互いの励ましが生まれ、意欲を持って取り組むことができた。

翌日の海洋実習では、練習の成果を発揮して、大きなかけ声とともに心を合わせてパドルをかき、それぞれの役割を果たしながらボートを進めていた。その様子に対して、指導員から「今年の中で一番協力してボートを上手に進めていた。すごい。」と褒めてもらい、児童はやりきった達成感・充実感を得ることができた。



## ○家族への感謝の手紙

宿泊体験の最終日に、児童には内緒で家族の方をお願いしていた本人宛の手紙を手渡した。

宿泊3日目で、児童は家族・家のことを恋しく思っているところに、健康等を気遣ったり励ましたりの内容の手紙をもらったので、感激して涙を流している児童もいた。お礼に、宿泊体験を通して家族のことについて考えたこと、日常の感謝のことを綴った手紙を書いた。

## 【体験活動の効果を高める事後学習】

### ○礼状の作成（国語科）

宿泊体験活動を行った似島臨海少年自然の家への礼状づくりに取り組んだ。その際、絵葉書の様式を使って、手紙の書き方をあわせて指導した。4日間の生活を振り返りながら、心に残ったことや学んだことなどを絵と文で相手に伝わるように書くことができた。

### ○発表朝会（特別活動・総合的な学習の時間）

「宿泊体験活動報告会」として、全校発表朝会で4日間の宿泊体験活動について報告を行った。事前に掲げていためあてをもとに振り返りを行い、各活動や生活の中で学んだことや一番伝えたいこと、わかりやすい発表の仕方について話し合いを行った。報告会では、プレゼンテーションソフトを活用して写真を交えて全員が協力・分担して発表を行った。また、感動したことを川柳で表現するなど、見ている人に効果的に伝えるための工夫も行った。



### ○道徳の時間との関連

「お父さんのおべんとう」（4－5 家庭愛）の資料をもとに学習した際に、宿泊体験活動時に家族の人からもらった手紙の内容を思い返すとともに、家族の役に立とうと進んで行っていることについて交流し合った。宿泊体験活動後に始めた家庭での手伝いを続けている児童も多くいた。道徳の時間に学習したことで、宿泊体験活動で学んだことを想起し、日常生活の中で生かしていくという思いを新たにさせることができた。

## 【交流先や施設等との連携】

- 目的に合ったプログラムを作成するため、計画段階で体験施設と連携を取り、日程等について指導・助言を受けた。また、事前に体験施設の下見を行い、現地における活動場所などの安全確認や、プログラムの修正と実施に関わる具体的な打ち合わせを行った。
- 活動中は、児童の健康状況や天候に合わせて活動内容を微調整するために施設の指導員との連携を密に行った。

## 【評価の工夫】

### ○「宿泊体験活動のしおり」への書き込み

事前にしおりに「集団生活でがんばりたいこと」や「体験活動を通して成長させたいこと」等を書き込ませ、めあてをもって宿泊体験活動に臨めるようにした。

活動中は、就寝前に振り返りの会を設け、めあてにそった活動の反省をしおりに書き込ませるとともに、各班の協力性や自主性・役割（各リーダー）の振り返りを行い、翌日の活動に生かせるようにした。さらに、体験活動終了後にめあてに対する自己評価や活動を通して成長したと感じること等をしおりに記入させた。

## ○各リーダーへの評価の実施

グループ内で班長・活動リーダー・食事リーダー・生活リーダー・保健リーダーの役割を決め、行動の指示は関連するリーダーを通して行うようにした。そのことで、リーダーとしての責任が明確になり、グループの行動の様子を見て、リーダーの評価を的確に行うことができた。引率職員も各リーダーの担当となり、その働きについて評価を行った。

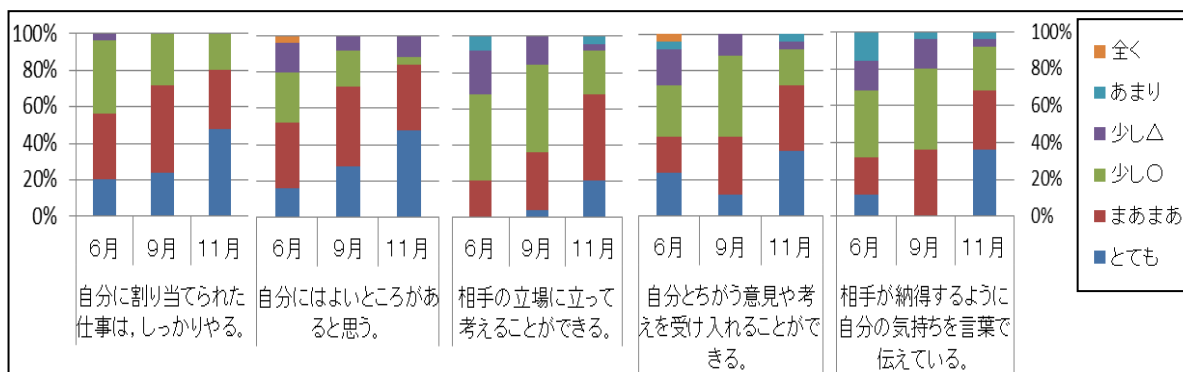
## 【安全面の配慮事項】

- 事前に宿泊施設・活動場所の下見を実施、緊急時の連絡方法や受入医療機関の確認を行った。
- 児童の事前健康診断を実施するとともに、食べ物によるアレルギー調査、携行薬の確認を行った（食べ物アレルギーについては宿泊施設と丁寧に連携・対応）。
- 過密日程にならないよう、ゆとりを持ったプログラムを計画した。

## 【体験活動の成果と課題】

○ 児童アンケートの結果では、「山・海・島」 宿泊体験活動の後、5つの質問項目全てにおいて肯定的な回答に伸びが見られた。体験活動の中で、役割を持たせ、責任持って行動できたことに対して評価を行ったことで次の活動への意欲につながったと考える。また、集団での宿泊生活によって、お互いの思いや考えを理解し合うことがよりよい生活を送ることになることを経験できたことが、その後の学校生活につながっている。体験活動から3ヶ月経ってもさらに肯定的回答が伸びているのは、宿泊体験活動で学んだことと関連させた授業を仕組んだり、委員会活動や当番・係活動等の特別活動を主体的に進められるように取り組んだりしたことが効果を挙げていると考える。

児童アンケートの結果



- 保護者アンケートの結果では、総じて肯定的な回答が少しずつ伸びたり、否定的な回答が少なくなったりしている。また、宿泊体験活動直後（9月）の保護者の記述アンケートでは、「今まで以上に家の手伝いをしてくれる。」「自分のことは自分でするようになった。」等、家庭での児童の変容を感じ取る保護者が多かった。成長があまり実感できないものとして、「相手の立場を考える」「自分と違う考えを受け入れる」等の項目で否定的な回答があった。児童が多様な人間関係の中で、お互いを理解し、協力し合いながら生活することの意義を感じながら学校生活を送れるよう、体験活動の学びを日々の生活に生かしていきたい。